



## 2022年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年8月10日  
上場取引所 東

上場会社名 株式会社コーセー  
 コード番号 4922 URL https://www.kose.co.jp/  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小林 一俊  
 問合せ先責任者 (役職名) IR室長 (氏名) 花倉 浩子 TEL 03-3273-1511  
 四半期報告書提出予定日 2022年8月10日 配当支払開始予定日 2022年9月9日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年12月期第2四半期の連結業績(2022年1月1日~2022年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年12月期第2四半期	130,604	—	7,209	—	15,158	—	8,883	—
2021年12月期第2四半期	122,933	—	8,789	—	9,718	—	5,459	—
(注) 包括利益	2022年12月期第2四半期		16,487百万円(—%)		2021年12月期第2四半期		10,192百万円(—%)	

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年12月期第2四半期	155.72	—
2021年12月期第2四半期	95.69	—

(注) 2021年12月期第2四半期は、当社及び3月決算であった国内連結子会社は2021年4月1日から2021年9月30日まで、12月決算であった連結子会社は、2021年1月1日から2021年6月30日までを連結対象期間としています。そのため、対前年同四半期増減率を記載していません。

#### [参考]

下記の%表示(調整後増減率)は、前年同期実績を2021年1月1日から2021年6月30日とした増減率です。

売上高 営業利益 経常利益 親会社株主に帰属する四半期純利益 (単位: 百万円)  
 125,087 4.4% 3,972 81.5% 7,127 112.7% 3,028 193.3%

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年12月期第2四半期	334,789	267,161	75.0	4,399.27
2021年12月期	320,018	254,267	74.5	4,178.06

(参考) 自己資本 2022年12月期第2四半期 250,995百万円 2021年12月期 238,357百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年12月期	—	60.00	—	60.00	120.00
2022年12月期	—	70.00	—	—	—
2022年12月期(予想)	—	—	—	70.00	140.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2022年12月期の連結業績予想(2022年1月1日~2022年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	293,000	—	20,000	—	22,600	—	16,500	—	289.22

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

[参考]

下記の％表示（調整後増減率）は、2022年12月期（2022年1月1日から2022年12月31日）に対応する前年同一期間（2021年1月1日から2021年12月31日）と比較した増減率です。

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
268,992	15,672	22,050	11,135
8.9%	27.6%	2.5%	48.2%

（単位：百万円）

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社（社名）－、除外 一社（社名）－

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- |                      |    |
|----------------------|----|
| ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | ：無 |
| ② ①以外の会計方針の変更        | ：無 |
| ③ 会計上の見積りの変更         | ：無 |
| ④ 修正再表示              | ：無 |

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年12月期2Q	60,592,541株	2021年12月期	60,592,541株
② 期末自己株式数	2022年12月期2Q	3,538,621株	2021年12月期	3,542,672株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年12月期2Q	57,051,201株	2021年12月期2Q	57,048,433株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が発表日現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は経済情勢の変動等に伴うリスクや様々な不確定要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定等については、四半期決算短信（添付資料）5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（2）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
（1）経営成績に関する説明	2
（2）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
（1）四半期連結貸借対照表	6
（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
（3）四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
（継続企業の前提に関する注記）	12
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）	12
（追加情報）	12
（セグメント情報等）	13
（収益認識関連）	15

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

第2四半期連結累計期間(2022年1月1日から2022年6月30日まで)

セグメントの名称	前第2四半期累計		(調整後) 前第2四半期累計		当第2四半期累計		(調整後) 前年同期比較	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
化粧品事業	99,806	81.2	99,371	79.4	105,588	80.8	6,216	6.3
コスメタリー事業	22,261	18.1	24,903	19.9	24,159	18.5	△744	△3.0
その他	865	0.7	811	0.6	856	0.7	45	5.6
売上高計	122,933	100.0	125,087	100.0	130,604	100.0	5,517	4.4

区分	前第2四半期累計		(調整後) 前第2四半期累計		当第2四半期累計		(調整後) 前年同期比較	
	金額 (百万円)	売上比 (%)	金額 (百万円)	売上比 (%)	金額 (百万円)	売上比 (%)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
営業利益	8,789	7.1	3,972	3.2	7,209	5.5	3,237	81.5
経常利益	9,718	7.9	7,127	5.7	15,158	11.6	8,030	112.7
親会社株主に帰属する 四半期純利益	5,459	4.4	3,028	2.4	8,883	6.8	5,854	193.3

※上記前年同期比較(調整後増減率)は、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を遡及適用したと仮定して前年同一期間(2021年1月1日から2021年6月30日)と比較した増減です。

①概況

当第2四半期連結累計期間(2022年1月1日から2022年6月30日まで)における日本経済は、新型コロナウイルス感染症に対する行動規制の緩和により、経済社会活動の正常化が進み、景気回復の兆しがみられました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症が再拡大する中、感染拡大防止と経済社会活動の活性化のバランスを取ることが求められ、需要の回復を抑制する可能性があります。さらに、ウクライナ情勢悪化による原油および原材料価格の高騰や日米金利差拡大を受けた円安により物価が上昇しており、依然として先行き不透明な状況が続いています。

当社グループが主に事業展開しているアジア・米国経済においては、中国ではロックダウンにより経済成長は一時減速し、ロックダウン解除後もゼロコロナ政策による厳格な防疫規制は継続され、景気回復に足踏みの状況がみられます。それ以外のアジア経済においては、コロナ禍からの経済回復が進む一方、物価上昇と金融引き締めが景気回復を鈍化させる懸念があります。米国においては、経済活動の正常化にともない、個人消費は底堅く推移しているものの、インフレによる景気後退懸念が強まっています。

日本の化粧品市場においては、行動制限の緩和による消費活動の再開により、スキンケア商品に加え、メイクアップ商品も緩やかな回復傾向にあります。アジア・欧米の化粧品市場においては、中国では、上海等におけるロックダウンの影響を受け、売上が一時的に落ち込みました。ロックダウン解除後に回復の兆しは見えたものの、ゼロコロナ政策が継続されることにより本格的な景気回復には時間を要する見通しです。一方、韓国では、防疫規制の緩和により、4月からトラベルリテール市場の需要が大きく回復しました。それ以外のアジアについては、一部地域では厳しい状況にありますが、全体では着実に回復しています。米国の化粧品市場は、メイクアップカテゴリーも含め、底堅い個人消費に支えられ、順調に成長しましたが、金融引き締めによる景気減速懸念は根強く残ります。

このような市場環境の中、当社グループは中長期ビジョン「VISION2026」を推進しており、「世界で存在感のある企業への進化」を目指しています。2022年度からは「PHASE II：世界での存在感拡大と更なる顧客体験の追求」の段階に入り、基本戦略の下、グローバルな事業展開の促進、事業領域および顧客層の拡大、デジタルコミュニケーションの強化、成長を支える経営基盤の構築に取り組んでいます。

当第2四半期連結累計期間における当社グループの業績については、中国でのロックダウンの影響を大きく受けたものの、日本の専門店・百貨店チャネルにおけるハイプレステージ、およびタルト（欧米）が実績を牽引し、売上高は調整後前年同期比4.4%増の130,604百万円（為替の影響を除くと調整後前年同期比0.9%増）となり、連結売上高に占める海外売上高の割合は42.0%となりました。利益については、原価率が上昇したものの、販売費の抑制および期ずれの影響によって増加し、営業利益は7,209百万円（調整後前年同期比81.5%増）、経常利益は為替差益の大幅な増加により15,158百万円（同112.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は8,883百万円（同193.3%増）となりました。

②セグメント別の事業

(a)化粧品事業

区分		前第2四半期累計	(調整後) 前第2四半期累計	当第2四半期累計	(調整後) 前年同期比較	
		金額 (百万円)	金額 (百万円)	金額 (百万円)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
外部顧客に対する売上高	百万円	99,806	99,371	105,588	6,216	6.3
セグメント間の売上高	百万円	—	—	—	—	—
売上高計	百万円	99,806	99,371	105,588	—	—
営業利益	百万円	12,453	6,594	9,965	3,370	51.1
営業利益率	%	12.5	6.6	9.4	—	—

化粧品事業においては、「デコルテ」が日本で引き続き好調に推移しましたが、中国では、新型コロナウイルス感染症拡大による経済活動制限の影響を受け苦戦しました。それ以外の主要ブランドでは、「アルビオン」は5月の薬用スキンケアコンディショナー エッセンシャルのリニューアルが業績を後押ししました。「ジルスチュアート」は、メイクアップ市場の需要回復に伴い、業績が伸長しました。欧米で展開する「タルト」は、底堅い個人消費に支えられ、主力商品や新商品の売上を伸ばしました。また、「カルテHD」は敏感肌市場の成長とともに、着実に業績を拡大していますが、主力ブランドの「雪肌精」は苦戦が続きました。その結果、売上高は105,588百万円（調整後前年同期比6.3%増）となり、販売費の抑制および期ずれの影響により、営業利益は9,965百万円（同51.1%増）となりました。

(b)コスメタリー事業

区分		前第2四半期累計	(調整後) 前第2四半期累計	当第2四半期累計	(調整後) 前年同期比較	
		金額 (百万円)	金額 (百万円)	金額 (百万円)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
外部顧客に対する売上高	百万円	22,261	24,903	24,159	△744	△3.0
セグメント間の売上高	百万円	—	—	—	—	—
売上高計	百万円	22,261	24,903	24,159	—	—
営業利益	百万円	△1,258	△234	△563	△328	—
営業利益率	%	—	—	—	—	—

コスメタリー事業においては、コーセーコスメポート㈱の「クリアターン」や「ジュレーム」、「サンカット®」を中心に4月以降は回復傾向にありましたが、第1四半期の減収・赤字を挽回するまでには至らず、売上高は24,159百万円（同3.0%減）、営業損失は563百万円（調整後前年同期は234百万円の営業損失）となりました。

(c) その他の事業

区分		前第2四半期累計	(調整後) 前第2四半期累計	当第2四半期累計	(調整後) 前年同期比較	
		金額 (百万円)	金額 (百万円)	金額 (百万円)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
外部顧客に対する売上高	百万円	865	811	856	45	5.6
セグメント間の売上高	百万円	218	35	210	—	—
売上高計	百万円	1,083	847	1,067	—	—
営業利益	百万円	287	305	455	149	48.9
営業利益率	%	26.6	36.1	42.6	—	—

その他の事業は、ホテルやゴルフ場向けアメニティ製品の販売やOEM生産の受注が増加したため、売上高は856百万円（調整後前年同期比5.6%増）、営業利益は455百万円（同48.9%増）となりました。

③地域別売上高(外部顧客に対する売上高)

	前第2四半期累計		(調整後) 前第2四半期累計		当第2四半期累計		(調整後) 前年同期比較	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
日本	70,815	57.6	71,712	57.3	75,760	58.0	4,048	5.6
アジア	36,459	29.7	37,715	30.2	36,092	27.6	△1,623	△4.3
北米	14,016	11.4	14,013	11.2	16,514	12.6	2,501	17.9
その他	1,641	1.3	1,646	1.3	2,237	1.7	590	35.9
売上高計	122,933	100.0	125,087	100.0	130,604	100.0	5,517	4.4

<日本>

日本は、ドラッグストアなどのマスチャネルにおいては、プレステージが引き続き苦戦を強いられた一方で、コスメタリーは4月以降、新商品の発売により売上を大きく伸ばしました。また、専門店・百貨店チャネルにおけるハイプレステージが引き続き好調に推移したことにより、売上高は75,760百万円（調整後前年同期比5.6%増）となりました。

<アジア>

中国は、上海等を中心としたロックダウンなど、ゼロコロナ政策による経済活動抑制の影響を受け減収となりました。海南島を中心としたトラベルリテール事業は、渡航制限の影響を受け苦戦しました。韓国のトラベルリテール事業は、防疫制限解除後の4月以降、売上は大幅に回復しました。これらの結果、売上高は36,092百万円（同4.3%減）となりました。

<北米>

タルトは、コンシーラーやマスカラなど主要カテゴリーの強化や、新製品を中心としたリップカテゴリーの伸長により、プレステージメイクアップ市場において高い市場シェアを維持しました。また、新規出店の推進に伴い、底堅い個人消費に支えられたことで、売上高は16,514百万円（同17.9%増）となりました。

<その他>

欧州におけるタルトは、メイクアップブランドの中でも高い成長を維持した結果、売上高は2,237百万円（同35.9%増）となりました。

(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループは、最近の業績の動向を踏まえ、2022年2月14日に公表した連結業績予想を以下の通り修正いたします。

(修正の理由)

売上高は、中国の上海等を中心としたロックダウンなど、ゼロコロナ政策による経済活動抑制の影響を受けたものの、日本における化粧品事業に緩やかな回復傾向が見られることなどから、当初計画通りに推移する見込みです。

営業利益については、ウクライナ情勢悪化による原油および原材料価格の高騰や、日米金利差拡大を受けた円安により物価が上昇しており、原価率が上昇する見込みです。また、中国市場での競争激化に伴う収益性の悪化により、営業利益は当初計画から2,000百万円減(当初計画比9.1%減)の20,000百万円に下方修正します。

経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益については、円安進行により為替差益が増加しており、当初計画通りに着地する見通しです。

尚、配当については、上述の理由を総合的に勘案し、中間配当および期末配当ともに当初計画を据え置き、70円とすることを予定しています。この結果、年間の配当は1株当たり140円を予定しています。

2022年12月期通期連結業績予想数値の修正 (2022年1月1日～2022年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株あたり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	293,000	22,000	22,600	16,500	289.22
今回発表予想 (B)	293,000	20,000	22,600	16,500	289.22
増減額 (B-A)	—	△2,000	—	—	—
増減率 (%)	—	△9.1	—	—	—
(ご参考) 調整後前期実績 (2021年1-12月)	268,992	15,672	22,050	11,135	—

セグメントの名称	2021年12月期 (2021年4-12月)		(調整後) 2021年12月期 (2021年1-12月)		(今回発表予想) 2022年12月期 (2022年1-12月)		(調整後) 前期比較	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
化粧品事業	189,082	84.0	217,742	80.9	238,500	81.4	20,757	9.5
コスメタリー事業	34,351	15.3	49,185	18.3	52,600	18.0	3,414	6.9
その他	1,549	0.7	2,064	0.8	1,900	0.6	△164	△8.0
売上高計	224,983	100.0	268,992	100.0	293,000	100.0	24,007	8.9

区分	2021年12月期 (2021年4-12月)		(調整後) 2021年12月期 (2021年1-12月)		(今回発表予想) 2022年12月期 (2022年1-12月)		(調整後) 前期比較	
	金額 (百万円)	売上比 (%)	金額 (百万円)	売上比 (%)	金額 (百万円)	売上比 (%)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
営業利益	18,852	8.4	15,672	5.8	20,000	6.8	4,328	27.6
経常利益	22,371	9.9	22,050	8.2	22,600	7.7	550	2.5
親会社株主に帰属する 四半期純利益	13,341	5.9	11,135	4.1	16,500	5.6	5,365	48.2



2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	105,281	109,163
受取手形及び売掛金	44,211	43,321
商品及び製品	34,374	41,229
仕掛品	2,310	2,835
原材料及び貯蔵品	27,059	29,970
その他	4,243	4,828
貸倒引当金	△156	△167
流動資産合計	217,324	231,180
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	52,620	52,548
減価償却累計額	△24,429	△25,201
建物及び構築物 (純額)	28,191	27,346
機械装置及び運搬具	21,902	22,119
減価償却累計額	△15,749	△16,601
機械装置及び運搬具 (純額)	6,152	5,518
工具、器具及び備品	45,211	46,089
減価償却累計額	△38,062	△39,335
工具、器具及び備品 (純額)	7,148	6,753
土地	17,393	17,379
リース資産	2,235	4,903
減価償却累計額	△1,699	△2,042
リース資産 (純額)	535	2,860
建設仮勘定	132	119
有形固定資産合計	59,554	59,977
無形固定資産		
ソフトウェア	4,293	4,225
のれん	4,615	4,986
その他	5,357	5,557
無形固定資産合計	14,266	14,769
投資その他の資産		
投資有価証券	15,534	15,854
退職給付に係る資産	5,470	6,003
繰延税金資産	3,863	3,181
その他	4,515	4,379
貸倒引当金	△509	△556
投資その他の資産合計	28,874	28,862
固定資産合計	102,694	103,609
資産合計	320,018	334,789



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,450	7,585
電子記録債務	16,327	17,133
短期借入金	600	3,336
リース債務	177	521
未払金	13,455	9,528
未払費用	10,323	9,108
未払法人税等	1,968	4,483
未払消費税等	1,022	321
返金負債	5,077	4,302
その他	2,734	2,560
流動負債合計	59,136	58,881
固定負債		
リース債務	639	2,732
繰延税金負債	1,374	1,061
その他	4,600	4,952
固定負債合計	6,614	8,747
負債合計	65,751	67,628
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,848	4,848
資本剰余金	26	38
利益剰余金	228,791	234,252
自己株式	△9,090	△9,081
株主資本合計	224,576	230,057
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,830	5,247
為替換算調整勘定	4,389	12,419
退職給付に係る調整累計額	3,561	3,270
その他の包括利益累計額合計	13,781	20,937
非支配株主持分	15,909	16,165
純資産合計	254,267	267,161
負債純資産合計	320,018	334,789

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)
売上高	122,933	130,604
売上原価	34,654	38,907
売上総利益	88,278	91,696
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	8,669	10,086
販売促進費	18,087	20,715
運賃及び荷造費	7,796	7,831
給料及び手当	24,085	24,231
退職給付費用	264	147
法定福利費	3,735	3,876
減価償却費	2,247	2,265
その他	14,602	15,332
販売費及び一般管理費合計	79,489	84,487
営業利益	8,789	7,209
営業外収益		
受取利息	97	94
受取配当金	222	177
還付消費税等	242	379
特許実施許諾料	4	7
投資事業組合運用益	224	—
為替差益	119	6,642
雑収入	194	829
営業外収益合計	1,105	8,130
営業外費用		
支払利息	7	29
支払手数料	5	6
貸倒引当金繰入額	146	48
投資事業組合運用損	—	75
雑損失	17	22
営業外費用合計	177	181
経常利益	9,718	15,158
特別利益		
固定資産売却益	3	124
投資有価証券売却益	90	—
特別利益合計	93	124
特別損失		
固定資産処分損	107	105
減損損失	27	79
関係会社株式評価損	—	12
事業整理損	103	—
割増退職金	—	164
特別損失合計	238	362
税金等調整前四半期純利益	9,573	14,921
法人税、住民税及び事業税	3,043	4,680
法人税等調整額	838	992
法人税等合計	3,881	5,672
四半期純利益	5,692	9,248
非支配株主に帰属する四半期純利益	233	364
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,459	8,883

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益	5,692	9,248
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,527	△583
為替換算調整勘定	3,197	8,124
退職給付に係る調整額	△224	△302
その他の包括利益合計	4,500	7,238
四半期包括利益	10,192	16,487
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	9,913	16,040
非支配株主に係る四半期包括利益	278	446

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	9,573	14,921
減価償却費	4,828	4,630
減損損失	27	79
事業整理損	103	—
のれん償却額	392	448
割増退職金	—	164
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	250	43
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△706	△699
固定資産処分損益 (△は益)	104	△19
受取利息及び受取配当金	△319	△271
支払利息	7	29
為替差損益 (△は益)	△219	△3,693
投資有価証券売却損益 (△は益)	△90	—
関係会社株式評価損	—	12
投資事業組合運用損益 (△は益)	△224	75
売上債権の増減額 (△は増加)	5,260	2,169
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△3,622	△6,316
仕入債務の増減額 (△は減少)	4,791	615
返金負債の増減額 (△は減少)	2,784	△1,179
その他の資産の増減額 (△は増加)	△2,815	436
その他の負債の増減額 (△は減少)	△6,768	△5,824
小計	13,357	5,621
利息及び配当金の受取額	454	251
利息の支払額	△8	△33
保険金の受取額	116	—
割増退職金の支払額	—	△698
法人税等の支払額	△4,743	△2,754
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,175	2,385
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△10,958	△15,331
定期預金の払戻による収入	1,060	11,907
有形固定資産の取得による支出	△1,670	△1,357
有形固定資産の売却による収入	134	210
無形固定資産の取得による支出	△969	△1,109
無形固定資産の売却による収入	—	1
投資有価証券の取得による支出	△560	△1,248
投資有価証券の売却及び償還による収入	338	—
貸付けによる支出	△33	△1
貸付金の回収による収入	0	0
投資その他の資産の増減額 (△は増加)	△237	144
投資活動によるキャッシュ・フロー	△12,896	△6,784

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△3,500	2,540
自己株式の純増減額 (△は増加)	—	△1
配当金の支払額	△3,422	△3,422
非支配株主への配当金の支払額	△190	△190
その他	△110	△301
財務活動によるキャッシュ・フロー	△7,224	△1,375
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,137	5,316
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△8,807	△457
現金及び現金同等物の期首残高	80,051	81,876
現金及び現金同等物の四半期末残高	71,243	81,418

（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（追加情報）

（新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会計上の見積りについて）

当第2四半期連結累計期間において、前事業年度の有価証券報告書に記載した会計上の見積りの仮定から重要な変更は行っておりません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	化粧品事業	コスメタリ ー事業	計				
売上高							
(1) 外部顧客に対する 売上高	99,806	22,261	122,068	865	122,933	—	122,933
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	218	218	△218	—
計	99,806	22,261	122,068	1,083	123,151	△218	122,933
セグメント利益又は損失(△)	12,453	△1,258	11,195	287	11,482	△2,693	8,789

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、アメニティ製品事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、以下のとおりであります。

（単位：百万円）

セグメント間取引消去	△54
各報告セグメントに配分していない全社費用	△2,638

全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の管理部門に係る費用及び基礎研究費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失、又はのれん等に関する情報

当第2四半期連結累計期間において、重要な事項はありません。

3. 地域に関する売上高情報

（単位：百万円）

日本	アジア	北米	その他	計
70,815	36,459	14,016	1,641	122,933



Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	化粧品事業	コスメタリ ー事業	計				
売上高							
(1) 外部顧客に対する 売上高	105,588	24,159	129,747	856	130,604	—	130,604
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	210	210	△210	—
計	105,588	24,159	129,747	1,067	130,815	△210	130,604
セグメント利益又は損失(△)	9,965	△563	9,402	455	9,857	△2,647	7,209

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、アメニティ製品事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

セグメント間取引消去	△116
各報告セグメントに配分していない全社費用	△2,531

全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の管理部門に係る費用及び基礎研究費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失、又はのれん等に関する情報

当第2四半期連結累計期間において、重要な事項はありません。

3. 地域に関する売上高情報

(単位：百万円)

日本	アジア	北米	その他	計
75,760	36,092	16,514	2,237	130,604

(収益認識関連)

収益の分解情報

当社グループは、「化粧品事業」及び「コスメタリー事業」の2つの報告セグメントに区分しており、当該報告セグメントは、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績の評価をするために、定期的に検討を行う対象としていることから、これらの2事業で計上する収益を売上高として表示しております。また、地域別の収益は、顧客の所在地に基づき分解しております。これらの分解した収益とセグメント売上高との関連は、以下のとおりであります。

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

(単位：百万円)

	日本	アジア	北米	その他	合計
化粧品事業	48,351	35,796	14,016	1,641	99,806
コスメタリー事業	21,598	663	—	—	22,261
報告セグメント計	69,950	36,459	14,016	1,641	122,068
その他(注)	761	—	—	—	761
顧客との契約から生じる収益	70,711	36,459	14,016	1,641	122,829
その他の収益	103	—	—	—	103
外部顧客への売上高	70,815	36,459	14,016	1,641	122,933

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、アメニティ製品事業等を含んでおります。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)

(単位：百万円)

	日本	アジア	北米	その他	合計
化粧品事業	51,404	35,431	16,514	2,237	105,588
コスメタリー事業	23,499	660	—	—	24,159
報告セグメント計	74,904	36,091	16,514	2,237	129,747
その他(注)	752	0	—	—	752
顧客との契約から生じる収益	75,656	36,092	16,514	2,237	130,500
その他の収益	103	—	—	—	103
外部顧客への売上高	75,760	36,092	16,514	2,237	130,604

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、アメニティ製品事業等を含んでおります。